

# 熊本大学病院 緩和ケアセンター医員募集要項

1 募集職種	医員 数名
2 採用予定日	書類選考・面接試験に合格後、できるだけ早い日
3 応募資格	医師法に定める臨床研修を終了した者
4 業務内容	緩和ケアセンターに関する以下の業務 (1) 診療 (2) 臨床教育の補助 (3) 診療に関する研究
5 選考方法	書類選考及び面接試験により選考します。 ※書類選考合格者に面接試験の実施について個別に電話連絡します。
6 選考日	書類選考の後、面接試験により選考します。 面接試験日は、応募締め切り後に書類選考合格者に連絡します。 面接試験の際は、指定の時間の10分前までに熊本大学病院外来診療棟2階緩和ケアセンターへお越し下さい。 (地図参照→ <a href="https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/map/zentai.html">https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/map/zentai.html</a> )
7 応募書類	(1) 履歴書(市販のもので可。出願前6か月以内の写真を貼付) (2) 職務経歴書(様式任意) (3) 医師免許証又は医師資格証の写し
8 応募締切	定員になり次第、募集を終了します。
9 応募方法	上記応募書類を一括して応募締切までに下記提出先に送付してください。 なお、郵送する場合は、必ず「 <b>書留</b> 」とし、封筒表面に「緩和ケアセンター医員応募書類在中」と朱書してください。 提出先：〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1 熊本大学病院 緩和ケアセンター
10 問い合わせ先	(処 遇) 医療サービス課地域・がん医療連携担当 電話096-373-5993(直通) (業務内容) 緩和ケアセンター 電話096-373-5637(直通)
11 処遇	別紙のとおり

# 処 遇

## 有期雇用職員（フルタイム勤務）

勤 務 地	熊本大学病院（所在地：熊本市中央区本荘1-1-1）
任 期	採用日～令和5年3月31日 ただし、業務の都合および勤務成績等を勘案し、契約期間の更新を行う場合があります。
給 与	フルタイム 日給 11,280円 パートタイム 時間給 1,455円
各 種 手 当	通勤手当、宿日直手当、時間外診療担当手当、超過勤務手当等
勤 務 時 間	（フルタイム） 月～金または月～金のうち4日 8：30～17：15（休憩時間1時間含む） 週38.75時間勤務（週4日勤務の場合は週31時間勤務） （パートタイム） 週31時間未満勤務 ※勤務時間をご相談に応じます。
休 日	土・日曜、祝日、年末年始（12/29～1/3）、夏季一斉休業（週5日または週4日勤務の場合） 業務の都合により休日に勤務が割り振られる場合もあり、その際には休日の振替又は休日給が支給されます。
休 暇 等	年次有給休暇 採用後6ヶ月経過後、次の1年間に10日の有給が付与されます。 ただし、パートタイムの方は、勤務日数によって付与される有給の日数が減る場合があります。 有給の付与は、全勤務日の8割以上勤務した場合に限ります。 特別有給休暇 夏季、忌引き休暇等があります。 その他 病気休暇（無給）、産前・産後休暇（有給）等があります。
保 険	加入要件を満たした場合、健康保険、厚生年金、雇用保険制度に加入し、医療給付、年金給付、失業給付等が受けられます。
そ の 他	退職金制度はありません。

上記の内容は令和4年6月1日現在のものです。

※1 応募後に受験を辞退される場合は早急にご連絡願います。

※2 応募書類は返還しませんので、その旨ご了承ください。

応募者の方から取得した個人情報、採用業務以外の目的で使用することはありませんので、申し添えます。

## 熊本大学病院緩和ケアセンターでの緩和医療研修について

熊本大学病院緩和ケアセンターでは、緩和医療の研修や経験を目的とした医師や専攻医を受け入れています。年間約 600 例程度の緩和ケアチームへの依頼があり、希望者は緩和医療認定医や専門医の取得を目標とします。緩和ケア病棟や在宅緩和ケアの研修は、関連他施設との協議で個別に判断します。

### 【研修プログラムの概要・特徴】

診療領域・職種横断的な緩和ケアチームの一員として診療活動に従事します。各専門診療科から紹介・コンサルトをうけた患者や家族を対象とし、主に身体症状と精神症状への対症療法や社会的支援およびスピリチュアルケアの考え方等について学びます。多職種（専門・認定看護師、薬剤師、リハビリ専門職（理学療法士等）、臨床心理士、管理栄養士、社会福祉士等）との連携を通じたチーム医療の実践を目標とします。

### 【雇用形態・待遇】

緩和ケアセンター医員

詳細：熊本大学病院職員募集欄参照

<https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/etc/recruit/>

### 【日本緩和医療学会認定研修施設】

認定日：2020 年 10 月 1 日

責任者：吉武 淳（緩和医療専門医、専門医機構認定麻酔科専門医）

### 【臨床研修の場所】

主：熊本大学病院緩和ケアセンター

副：熊本県内の緩和ケア病棟や在宅療養支援診療所等

他：熊本県外の緩和ケア病棟・ホスピスを希望する場合は要相談

### 【期間】

研修期間や開始時期については個別に設定

### 【評価】

評価は研修責任者が行う。

学会発表や論文作成を目指す。

### 【責任者】

緩和ケアセンター長：吉武 淳

### 【指導者】

緩和ケアセンター：吉武 淳（正）、森枝 悟（副）

### 【プログラム例】

\* 研修の目的・希望と研修施設の状況で、個別にプログラムを検討

(1) 緩和ケアチームを主として研修

	研修内容		
1年目	緩和ケアチーム・外来		
2年目	緩和ケア病棟	在宅緩和ケア	自由選択

(2) 緩和ケアチームを主として研修（他施設が主の場合）

	研修内容		
1年目	緩和ケアチーム（週1日）		

(3) 緩和ケアチームを主として研修（他の研修施設が得られにくい場合）

	研修内容		
1年目	緩和ケアチーム・外来 在宅緩和ケア（週1日）		
2年目	緩和ケア病棟	自由選択	

(4) 緩和ケア病棟を主として研修

	研修内容		
1年目	緩和ケア病棟・外来		
2年目	緩和ケアチーム	在宅緩和ケア	自由選択

(5) 診療所を主として研修する場合

	研修内容		
1年目	診療所	緩和ケア病棟	緩和ケアチーム
2年目	自由選択		

【研修の目標】

● 一般目標

生命を脅かす疾患に罹患している患者・家族を対象として、全人的ケアを目標としたチーム医療を経験する。

● 行動目標（Specific Behavior Objectives: SBOs）

基本的症状マネジメントの経験。機会があれば、看取りの方法・礼儀作法についての経験。

I 身体症状・精神症状マネジメント

【態 度】	
1	身体的・精神的だけでなく、心理的・社会的に評価・把握することができる
2	症状マネジメント及び日常生活支援が QOL の向上の基本であることを理解することができる
3	緩和ケアは患者・家族と多職種チームによる共同作業であることを理解することができる

4	患者家族の気持ちに配慮しつつ過度の期待に対し現実的な目標設定を行うことができる
5	自らの限界を認識し、自分で対応できない課題について適切にコンサルトできる
<b>【技能】</b>	
1	以下の身体症状・精神症状マネジメントを経験する 1) 痛み ① がん疼痛 ② 非がん疼痛 2) 呼吸器系・循環器系 ① 咳・痰 ② 呼吸困難 ③ 死前喘鳴 ④ 動悸・胸痛 3) 消化器系 ① 食欲不振 ② 嘔気・嘔吐 ③ 便秘 ④ 消化管閉塞 ⑤ 腹部膨満感 ⑥ 腹水 4) 精神症状 ① 抑うつ ② 不眠 ③ せん妄 5) 腫瘍学的緊急症等・その他 ① 高カルシウム血症 ② 出血 ③ 脊髄圧迫 ④ 倦怠感 ⑤ 終末期の症候
<b>【知識】</b>	
1	痛みの定義・評価、WHO 方式がん疼痛治療法
2	鎮静の適応と方法

## II コミュニケーション

<b>【態度】</b>	
1	患者・家族の気持ちを尊重した傾聴ができる
2	コミュニケーションは人間関係の基本であることを理解する
<b>【技能】</b>	
1	患者がどのように病態・予後を理解しているか把握できる
2	患者・家族の不安要素を理解し、対応できる
<b>【知識】</b>	
1	悪い知らせの具体的な伝え方について、述べることができる

## III 家族ケア・死別による悲嘆・スピリチュアルペイン

<b>【態度】</b>	
1	家族の意志・希望が異なる場合もあることを理解できる
<b>【技能】【知識】</b>	
1	家族援助を目的とした社会的資源を活用できる
2	スピリチュアルペインに気づくことができる

【参考資料】 日本緩和医療学会緩和医療専門医 研修カリキュラム 2017 年版 Ver.1.4  
<https://www.jspm.ne.jp/files/specialistCertification/curriculum.pdf>

【参考資料】 医師臨床研修指導ガイドライン -2020 年度版- より一部抜粋  
v) 緩和ケア

研修目的：生命を脅かす疾患に伴う諸問題を抱える患者とその家族に対する緩和ケアの意義と実際を学ぶ。緩和ケアが必要となる患者での緩和ケア導入の適切なタイミングの判断や心理社会的な配慮ができるようになる。

参考：厚生労働省 がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 (e-learning)  
<https://peace.study.jp/rpv/>

参考：日本緩和医療学会 教育セミナー  
[https://www.jspm.ne.jp/seminar\\_m/index.html](https://www.jspm.ne.jp/seminar_m/index.html)

vi) アドバンス・ケア・プランニング (ACP)

研修目的：人生の最終段階を迎えた本人や家族等と医療・ケアチームが、合意のもとに最善の医療・ケアの計画を作成することの重要性とそのプロセスを学ぶ。

参考：人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000197721.pdf>